



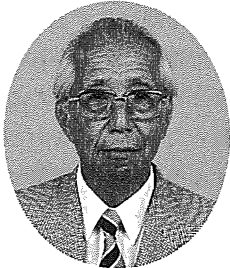
ASSOCIATION OF



TOKYO

No. 32

発行 (財)東京都スキー連盟  
〒102 千代田区麴町4-5  
第6麴町ビル 551号  
TEL (3262) 2491(代)  
発行日 1993. 5. 1  
編集 S A T編集委員会  
印刷 エース工芸株式会社



## 社会に通用する人間に

(財)東京都スキー連盟

副会長 井田博基

私は原点に戻って、基本的なことから申し上げたいと存じます。  
スキーをスポーツとして愛される皆さん。

### 1. ルールを守ること。

これは全てのスポーツに当てはまることで、年齢を問わず守らねばなりません。スキーを離れても生徒として、学生として、社会人としてルールを守るとは人生にとって必要であります。

### 2. 集中力の養成。

競技スキーであれ、基礎スキーであれ、フリースタイルスキーであれ、技術の向上のためには、日頃から集中力を養うことが大切であります。学業にしても、社会生活にしても、自己の全能力を発揮しなければならない場面が必ずあります。

### 3. 社会奉仕の精神の養成。

スキーは、個々の争いによって優劣を決めるスポーツではありますが、世の中は自分一人で生きて行くことは出来ません。其処には団体生活もあり、他人に対する思いやりと奉仕の精神がなくてはなりません。

連盟の存在価値は、これらの3点を努力される皆さんに対して、出来るだけ助言し奉仕することにあります。私達役員も自重自戒して円満な連盟の運営を行い皆さんの役にたてば、これに過る喜びはないと存じます。どうか、模範的な、生徒、学生、社会人、に成長されますよう、心から願っております。

私はこのシーズンは主に競技部行事に参加いたしましたが、どの競技会に於ても競技部の役員の方々が、少くない陣容にも拘らず、選手が出来るだけ良い条件で滑れるよう、ボランティア精神に徹し日夜努力されている姿を見て、真にこうあるべきであると感じた次第です。

連盟の行事を消化するためには、協賛各社の協力と、地元の協力が不可欠であります。昨今の景気の低迷で仲々難しい状況にあることは間違いありません。

私は競技会の開会式に於て、盛田会長の代理として挨拶する場合、協賛各社並に地元に対し、その協力を感謝する旨、必ず申し上げておりますし心からそう思っております。

終わりに、協賛各位並びに地元に対し、来シーズンも都連行事が円滑に行うことが出来ますよう、変らぬご協力を、紙上を借りて切にお願い申し上げます。



各加盟団体ならびに会員の皆様のご協力によりまして、平成5年度の雪上行事をつつがなく終了することができました。ご支援をいただいた多くの方々に、厚く御礼申し上げます。

今シーズン、東京都多摩障害者スポーツセンターが開催した第1回障害者スキー教室に参加する機会がありました。参加した私たち指導員にとりましては、何もかもが初めての経験であり、斜面の選定から指導法の細部に至るまでそれこそ暗中模索の連続でしたが、主催者側の全面的なバックアップもあって、いろいろな試みが続いているうちに、指導もしいだいに軌道に乗り、受講者が生き生きとスキー体験に挑戦している姿は、まことに感動的でした。初めてスキーを経験した受講者の中からは、「スキーのおかげで人生観が変わった」という声も聞かれ、指導員一同感激する場面もありました。障害者のスキー指導には、未開拓の分野が多くあり、より充実した指導体制づくりが大きな課題であると痛感しました。

これからの高齢化社会においては、中高年者のスポーツ・レク活動がますます盛んになっていきます。スキーはいくつになっても楽しめるスポーツとして、これまで以上にその有効性が見直されていくものと思います。ですから中高年者に対するスキー指導や環境づくりについて、もっと深く研究を進め、潜在的なニーズに答えていく必要があります。このことは別の見方をすれば、スキーがより広く愛されるスポーツになっていくための条件づくりになるでしょうし、また、い

くつになっても創造的にスキー・レク活動を満喫していくための基盤づくりといってもいいと思います。人間における青年期が、それ以前の児童期の単なる量的拡大ではないと同じように、高年期は必ずしも青年・成年期の延長線上にあるものではなく、多かれ少なかれ発想の質的転換が必要になります。こうしたことは何もスポーツの世界だけに限ったことではないと思いますが、時代の変化に対応する指導体制・環境づくりということで、熟年スキーヤーに照準を当てた、より幅広いスキー・レク活動への考察と施策の必要性を痛感します。

財団法人としての公益性を高め、政策集団ならびに研究集団としての都連の発展を期するためには、これからのいろいろな場面で、衆議を深め、衆知を結集していく必要があると思います。生涯スポーツが定着して、都民のスポーツ・レク活動に対するニーズもますます多様化しています。各加盟団体にできることもあれば、都連でなければできないこともあります。こうした状況を視野に入れながら、衆議を尽くして、都連の活動の拠点を確立していくことがきわめて重要と考えます。

財団法人は、ご承知のように寄附という行為によって成り立っている組織です。この寄附行為を抵抗なく受け入れてもらうためにも、活動の拠点がしっかりとっていて、しかも永続性をもっていることが前提条件です。

信頼される組織と魅力ある活動をめざし、今後とも努力してまいりたいと存じますので、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

## お知らせ

6月27日(日)	評議員会	四谷雙葉高校
9月11日(土)	事務担当者会議	勤労福祉会館
9月23日(祝)	救急法講習会	青山学院大4号館
10月9日(土)	指導者養成講習会	勤労福祉会館
11月14日(日)	準指理論検定会	青山学院大1号館

### はじめに

都連事務局は新しいスタッフによって、能率良いシステムと新しい事務の流れで正確に業務が推進しております。

これは事務局長、事務局員のひたむきな努力によることはもとより、加盟団体の皆様のご指導とご協力を頂いたからこそと、誌上をおかりして深く感謝を申し上げます。

ひきつづいて、都連運営の要としての総務部が、各部門の調整を図り、行事執行の円滑化と組織運営のより一層の充実を目指すことは、これからの課題の第一義と考えます。

### 5年度報告

① 公益法人としての組織活動の充実のため、OA機器の活用によるシステム化を導入した。

OA化システム委員会を中心に検討。当面、会計処理を重点に、積極的な取り組みを図っている。

② 財務委員会の活動を強化し、新分野の協賛と新財源確保のための活動を行った。

従来の協賛、冠大会などを再検討し、新協賛団体の確保を積極的に行った。

③ 規約等検討委員会を中心にして、新しい財団法人としての都連の有り方の審議検討を続行した。

④ 評議員会の年2回開催を実施。

財団法人としての評議員会（予算、決算分割開催方式）の導入により、1992年6月、平成5年度事業案・予算案を中心として、8月、平成4年度事業報告・決算報告を主として、評議員会を年2回開催した。

⑤ 広報活動——機関誌発行・新聞掲載

都連と加盟団体との情報交換、相互理解の場として「S・A・T（都連だより）」を年2回定期発刊した。

更に、11月「都連写真特集号」東京都スキー連盟一年間の各部の活動状況を、ビジュアルな写真集として収録発刊した。

⑥ オールマナックを発行し、2年に1回発刊される東京都スキー連盟名簿を刊行し、各加盟団体及び所属会員に活用された。

### <国際委員会報告>

○「ワールドスキーテクニクインジャパン」講習会の支援

○海外派遣選手を例年どおり送った。

○「Ski Activities」東京都スキー連盟の活動内容を紹介した海外向け英語版小冊子、の改定版を発刊。

## 新加盟団体の紹介

### 新加盟団体

No	新加盟団体名	会員数	代表者氏名	保証団体名	仮承認年
5 5 4	日本エアシステム・スキー部	37名	安居 敏考	日本航空スキー部	92.8
5 5 5	スポーツファンクション	30名	佐藤 良裕	ファイブリングス・スキークラブ	92.8
5 5 6	アルベールヴィルスキークラブ	41名	西池今朝雄	東京シーハイルスキークラブ	92.8
5 5 7	エフ・シー・オースキークラブ	33名	佐藤 文宣	デサントスキー部	92.8
5 5 8	ベラーク	30名	丹後 敏子	I B Mスキー部	92.9
5 5 9	ネージュスキークラブ	30名	内田慎一郎	早稲田大学スキー同好会W. S. S	92.10
5 6 0	デモスキークラブピーハイブ	30名	北郷 宏昭	コメクエスト	92.10
5 6 1	D. D. ダイヤモンド	30名	大川 富雄	日本ノルディカスキーチーム	92.11
5 6 2	明治大学基礎スキー研究会ロンドール	56名	宮岡 裕介	杉並区スキー連盟	92.11
5 6 3	丸沼高原レーシングチーム	36名	宮津 英光	二十日石アルペンスキークラブ	93.4

### 名称変更

No	新 名 称	旧 名 称
5 1 4	さくら銀行スキー部	太陽神戸三井銀行スキー部

今シーズンの教育部諸行事は円滑に運営ができた。行事内容は増加する参加人員と行事回数について、シーズン前に対応策を徹底して検討した。行事内容にいささか問題はあったが、全スタッフのチームワークによって乗り切ることができた。

### 1 専門委員研修会

各行事の実施に先がけ、S A J 中央研修会のテーマ伝達の徹底も兼ねて12月中旬に、北海道朝里川で技術強化の研修を実施した。雪の状況の良い所で徹底した技術強化をすることができた。明年度も実施予定。

### 2 指導員研修会・公認検定員クリニック

- 1) 増加する有資格者数に対して行事回数を7回とし、参加人員の分散化と内容の充実を図った。
- 2) 指導員研修会と検定員クリニックを2泊3日の日程の中に盛り込み、両方の資格更新を容易にして、会員の便宜を図った。
- 3) 指導員海外研修については、参加者のスキー活動の中を広げ、国際交流を含め成果が上がった。

今後も積極的に実施してゆく予定である。

### 3 指導者養成講習会

- 1) 準指検定受験者増加で、養成講習会参加者も非常に増えた。講師の人員割当や、行事全般の運用が困難になったが、綿密な計画立案で消化できた。人数増加は反面技術レベルの低下につながり、4日間の講習では期待する成果は望めなかった。

今後会期を前年度のように延長する等の処置も望まれるが、現状では教育部行事数の増大に関しては困難であるが前向きに検討したい。

- 2) 指導員検定受験者の講習会参加は非常に少なかった。今年度の各検定会場での都連所属の受験者の合格率は、他府県に比較して誠に低かった。

受験者は自己技術向上のノウハウ取得に対しての、一層の自覚と奮起が望まれる。

S A J は明年度、指導員検定受験者に養成課程カリキュラム習得の義務づけを検討中である。これにともない都連でも養成課程参加の義務づけを実施する予定である。

### 4 東京都スキー技術選手権大会

他の行事と同様に年々参加者は増加し、今年は総数545名となった。運営上はともかくとして、予選なしで全員参加となると、内容がずさんになり大会の盛り上りに水をかけるきらいがある。参加者からも問題提起されている。明年度は予選で半数以下に絞り厳選して、全日本への出場選手を選出する予定である。

### 5 準指導員検定会

- 1) 受験者総数1094名は運営上の限界を超えた人員である。菅平の850名はプランニング時に検討し受験者を2グループに分離し各種目について2個班とし、併列にして実施した。天候も良く運営も円滑にでき無事終了した。
- 2) 今年度は合格率が非常に低かった。受験者数の増加に反比例して技術レベルの低下はしかたがないとはいえ、各クラブからの受験者推せんの際技術レベルの再検討と、養成講習会の日程延長等を今後考慮する必要がある。

(文責・渡辺 茂)

海外スキーツアー、  
私たちにご相談ください。03(3203)9630

- 地球を滑ろうSNOW WORLDヨーロッパ・カナダ・アメリカ・ニュージーランド方面
- 南太平洋の島々へBEACH WORLDニューカレドニア・タヒチ・フィジー・ブーケット方面
- どんな旅でも03(3203)1213まで個人から団体・出張から社内旅行などご用命下さい。

社団法人日本旅行業協会 正会員 運輸大臣登録一般旅行業第351号・一般旅行業取扱主任者橋本健

株式会社 クロサワトラベルサービス

〒169東京都新宿区大久保1-3-14ワールドビジネスセンター新宿5階 FAX.03-3203-9633

部長 尾山 正人

## 昨年は8位、今年は5位の国体報告

第48回国民体育大会冬季大会スキー競技会は、西日本最大の規模を持つ鳥取県大山スキー場で行なわれました。2月16日の開会式の前に会場の横のゲレンデで教育庁の鈴木氏の進行で団結式が行なわれ、佐藤久也選手の旗手の先導で入場。色とりどりの各県連のウェア、天候も良くみんなの顔もほころんでいました。

第27回に大山で行った団体に比べると設備も良く選手の数も多いと地元の方は語っていました。東京から新幹線、特急・バスと乗り継いで約7時間、夜行バスで11時間、大山は遠い所だと皆の口から出る言葉でした。国体直前強化合宿は2月13日より始まりましたが、アルペンのトレーニングバーンが遠く夏の自動車道路を40分スケータリングしなければ行けず、他の県連はスノーモービルを使っている。東京でもどうにかして欲しいと要請が監督・コーチから有り。宿の方に頼んでスノーモービルを借用。少しは選手達の体力消耗の減につながった。折りからの風邪に倒れる選手が続出で、下熱剤を打ったり、栄養剤を飲んだり健康面の管理が大変だったが怪我人が無かった事は幸せだった。東京都は団長濱中春吉氏、副団長尾山正人氏、総監督長谷川武氏、他役員17名。アルペン選手26名、ノルディック選手19名、総勢65名の大所帯。宿舎はやまびこ荘で、バス降車場から約400m、連絡リフトへ約50mと言う素晴らしい場所、又宿舎の方々の心暖い協力。ワックスルームの不足を何とかして欲しいとお願いをしたところ、ロビーにビニールシートを敷いて急造。ワックス台が欲しいと頼むと、家には無いが探しましょうと言って下さり、アルペンもノルディックも仲良く

スキーのワックスをする事が出来感謝でいっぱいでした。又昼食は普段休憩のところノルディックの人達の昼食を用意して下さり「東京は成績がいいね」、張り合いがあるよ！」と心から喜んでおりました。又ノルディックのスペシャルジャンプの富谷茂樹コーチ、吹田選手、笠間選手は、海外遠征から成田へ着きそのまま米子迄飛行機の乗継で大山へ、公式練習の前夜宿舎到着。翌日も時差ボケでねむい、ねむいの連発で調子はイマイチです。との報告。

今回アルペンGSで少年女子佐伯 幸選手が2位に入り、ビデオカメラの密着取材に長沢監督も白い歯を見せてニコリの風景も有り、成年男子Bの五藤伯文選手の2位に尾山副団長もよかったとホットした様子。ノルディックもクロカン15kmとスペシャルジャンプに得点。ノルディック得点16点アルペン得点28点。男女総合で44点の5位。女子総合17点で5位を獲得しました。

大会中は天候が悪くGSのスタート時間が遅れたり、ジャンプでフライトがなかなか出来なかったり、予定通り進行しない時の精神状態のコントロール、又試合に向けての体調及テクニックのコンディションを最高に持って行くために監督・選手・役員共に気をゆるめる事の出来ない日々でした。

### <後感>

昨年の山形国体に比べて鳥取大山の国体は、下駅が数箇所あった為か、盛り上がりを感じられなかった。役員の中にはスキーを一度も履く事もなくパッキングしたままの人も有り、各々が精いっぱいがんばった大会でした。

(文責・五十嵐成子)



東京都スキー連盟公認スキー場

# Shiga Sun Valley

志賀高原サンバレースキー場

法坂スキーリフト株式会社

TEL 0269-34-2255

FAX 0269-34-2616

# フリースタイル部報告

部長 大 槻 譲

毎年四谷の旧外堀の土手に桜が咲き揃うと、スキーシーズンも終りに近いという実感がわいてくる。

省みると今年ほどスキー関係のニュースが話題になったシーズンは、今までなかったように思う。

アジアで初めての世界選手権大会（アルペン平石大会）の開催、これは予想外の悪天候であった。この他コンバインド・ジャンプ陣の活躍等々。

フリースタイルスキーの分野では、前述の種目のような派手な話題はなかったものの、国際大会や国内大会での若手の台頭が目立ち、大きな飛躍の年であった

と思う。

また来年のリレハンメル冬季オリンピックから、エアリアルが正式種目となったことは、我々にとっても大きな喜びであった。

こうした状況の下、都連からも世界選手権大会をはじめ、ワールドカップ等のFIS公認大会に参加して健闘した都連会員の活躍と、第13回全日本選手権大会の入賞者を紹介して、今シーズンの報告に代えたいと思う。

## 世界選手権大会

オルテンマルク（オーストリア）3/6～15

パ レ エ		エ ア リ ア ル					
田 中 由 香 子 (港区)		15位		横 山 岳 男 (リステル)		29位	
生 沼 英 幸 (港区)		21位					
F I S ワールドカップ		第 3 戦 CAN	第 4 戦 USA	第 5 戦 USA	第 6 戦 CAN	第 10 戦 GER	最 終 戦 NOR
パ レ エ	田 中 由 香 子 (港 区)	14位	22位	15位	20位	14位	8 位
	生 沼 英 幸 (港 区)	11位	19位	22位	18位	—	—
エ ア リ ア ル	横 山 岳 男 (リステル)	21位	19位	39位	—	—	22位
	待 井 寛 (リステル)	24位	29位	30位	18位	—	—

(備 考)

最終戦（リレハンメル）では、モーグルの岩淵隆二選手（北海道）がこの種目で、初めて日章旗を掲げる（3位入賞）。且つ今シーズンの新人賞を獲得したことは、大きな刺激であった。バレーで田中選手の8位入賞も立派な成績である。

## F I S ノーアム競技会

		レークプラシッド 1 / 29～31	ル レ ラ イ ス 2 / 5～7
パ レ エ	長 谷 川 宏 太 郎 (港 区)	13位	10位
	近 藤 有 希 子 (順天堂大)	5 位	4 位
エ ア リ ア ル	八 木 琢 麻 (スカーゼ)	13位	3 位
	石 川 康 太 (リステル)	17位	—
	安 藤 和 明 (ダイワ)	23位	13位

ノーアム競技会は、北米コンチネンタル大会として位置づけられており、次代のワールドカップ出場を狙う若い選手が参加する大会である。ここでも日本の若い力が爆発して、原大虎選手（北海道）が、男子モーグルで優勝1回。里谷多英選手（北海道）が女子モーグルで、優勝・2位各1回と、めざましい活躍をした。都連選手も奮戦八木選手の3位。近藤選手の4位。5位入賞は立派で、今後に大きな希望を持たせてくれた。

# 第13回 全日本選手権大会

猪苗代町3/6～7

	男 子			女 子		
バ レ エ	生 沼 英 幸 (港 区)	1 位	上 村 祐 代 (ノルディカ)	1 位		
	長谷川 宏太郎 (港 区)	3 位	田 中 由香子 (港 区)	2 位		
	谷 合 勘 弥 (フ リ ー)	8 位	近 藤 有希子 (順天堂大)	4 位		
モ グ ル	林 貴 志 (リステル)	14 位	堀 江 寿美代 (リステル)	6 位		
			上 村 祐 代 (ノルディカ)	10 位		
エ ア リ ア ル	安 藤 和 明 (ダ イ ワ)	2 位	上 林 祐 代 (ノルディカ)	1 位		
	待 井 寛 (リステル)	3 位				
	荒 瀬 裕 基 (スカーゼ)	5 位				
	石 川 浩 (スカーゼ)	7 位				
	前 田 一 (スカーゼ)	9 位				
	漕 水 孝 範 (スカーゼ)	10 位				

## 安全対策委員会

委員長 内 田 時 雄

### 救急法講習会

93年度、救急法講習会が青山学院大学講堂で9月23日開催されました。

申込者数 770名

出席者数 男子 583名 女子 161名 計 744名  
欠席 26名 出席率 96.6 %

講義は、10時より日本赤十字社神奈川県支部事業部長小島祐嘉講師及び、日本赤十字社東京都支部救急法指導員田中真人講師より、救急法の講義。三角巾を使用する実技が行われた。

今回は、参加者も多数であり、実技は2会場に分け、若干余裕をもって受講出来る様に配慮した。準指受検者、安全対策担当者共に熱心に受講されました。

### パトロール受検者養成講習会

各団体の推せんを受けたパトロール受検者の養成講習会が、1月8日より10日まで車山高原スキー場で開催されました。南関東ブロック神奈川県連より7名、千葉県連より2名、都連の11名参加で進められました。講義内容は、資格取得に向けて雪上技術・ボート搬送。室内での座学、ロープワークや三角巾の実技と多くの講習を受けました。

94年度行事計画(案)のお知らせ

救急法講習会 9月23日(祝) 青山学院大学

### パトロール受検者養成講習会

94年1月7日(金)から9日(日)まで  
車山高原スキー場

パトロール受検のためには、日本赤十字社救急法普通科講習会を修了し「適任証」を受領していなければなりません。この講習会は定期的に毎月、日赤東京都支部において開催していますので、受講を希望する方は下記に日程等を問合わせのうえ申込みをして下さい。なを、日赤東京都支部にお願し、都連を中心とした講習会開催を検討しています。

日赤東京都支部事業部普及課安全係

TEL 03-5273-6741～8

### スキー傷害事故報告について

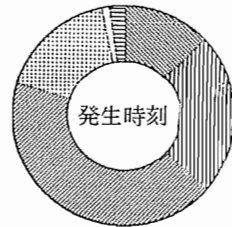
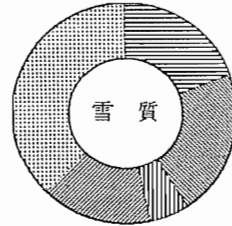
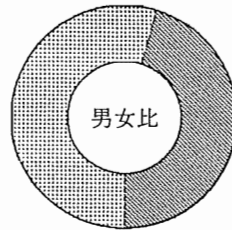
別掲の集計は平成4年度にスキー学校実施報告書と共に、提出された傷害事故報告書を集計した一部です。技術的には中・上級者に多発しており、午後3時頃が発生し易い時間帯となっている。

未然防止が安全の第一であり、「雪無し県」としてこの集計を活用して、今後は事前対策も考えて行く必要があります。

(文責・理事 斉藤 敬三)

# 平成4年度 スキー傷害事故報告書集計表

項	目	受傷者数	
傷害時の行動は	講習中	66	
	自由時間	17	
	無回答	5	
傷害発生時間は	午前	10時まで	11
		12時まで	21
	午後	3時まで	38
		5時まで	15
	ナイター中	1	
	無回答	2	
傷害時の雪質は	粉雪	17	
	ベタ雪	19	
	ざらめ雪	5	
	アイスバーン	14	
	踏み固めた雪	33	
	無回答	0	
ゲレンデの整備状況は	良	70	
	不	11	
	無回答	7	



別表 1 受傷者の年齢 (傷害発生時の満年齢)

年齢	10歳未満	10～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61歳以上	無回答
傷害者数	1	5	21	20	7	11	1	22

別表 2 当該シーズンの滑走日数 (傷害発生時まで)

日数	0	1～3	4～6	7～9	10～14	15～20	21～30	31以上	無回答
傷害者数	8	13	13	6	17	11	1	1	1

別表 3 全治日数

日数	1～5	6～7	8～10	11～14	15～21	22～30	31～50	51～89	90以上	無回答
傷害者数	15	16	8	5	12	12	5	6	3	6

(新住所)  
〒100 東京都新宿区四谷4-24 第5右橋ビル  
03(3333)3051  
郵便振替・東京00-2600004

**スキーヤーナルの  
スキー図書&VTR**  
★好評発売中! (定価は税込)

▲スキー・ビデオ・最新作  
《保存版》93 技術選  
「トップ10のテクニック」  
第30回全日本スキー技術選手権大会  
税込価格3,200円(分ラ180分)宅配  
●全7種「トップ10」男女総合10位を収録

▲93スキー・図書・新刊  
《楽しいスキー教室  
(スキー・修学旅行指導教本)  
財団法人スキー連盟編著 定価1,300円(税別)  
●スキー教室の計画・進行・技術指導法

《野沢温泉スキードリル  
スキー自由自在  
野沢温泉スキークラブ編著 定価1,600円(税別)  
●ポールを利用した効率的な練習法を解説  
※ビデオ版 全2巻・税込価格3,980円

シヨートターニ編①基本パターン  
シヨートターニ編②バリエーション

スキー百景 [後には金井に  
金井英一郎著・定価1,000円(税別)  
●スキー界を鋭く描くスキー・エッセイ

▲創刊号・第2号・好評発売中!  
**スキー場経営**  
スキーヤーナル編各号定価15,000円  
●スキー場経営に関わる様々な問題対策  
現状を、海外の状況をもまじえ具体的に検証



# 第46回東京都スキー連盟クラブ対抗競技会

(東京新聞、東京中日スポーツ杯)

菅平高原に会場を移して3回目、3月6日(土)7日(日)と好天に恵まれ開催された。

ースで行われ、参加団体は51、参加選手は759人であった。

アルペン競技は太郎スキー場、距離競技は自然館コ

ブロック別、及び総合成績は次のとおりでした。

## 団体総合成績

アルペン種目 1. 若葉スキークラブ 2. 世田谷区スキー協会 3. 東京スポーツマンクラブ

ノルディック種目 1. 世田谷区スキー協会 2. 江東区スキー連盟 3. 東京スポーツマンクラブ

## アルペン競技

(各組上位3位迄の選手)

組別	1位	2位	3位
男子ジュニア	程 塚 契 (八王子市)	青 木 克 好 (世田谷)	中 條 隆 明 (港区)
〃 少年	平 本 佳 暢 (町田市)	酒 井 雅 之 (アート)	谷 雅 則 (スポマン)
〃 1部	齊 藤 俊 (新宿)	寺 岡 岳 夫 (青梅市)	宇 田 直 人 (富士通)
〃 2部	草 野 薫 (日立)	成 田 知 隆 (ティンバーライン)	内 田 仁 (風花)
〃 3部	山 本 秀 作 (特別区)	佐 藤 一 正 (二十日石)	石 川 利 博 (N T T)
〃 4部	庭 野 隆 (若葉)	長谷川 春彦 (N T T)	本 平 国 幸 (エーデル)
〃 5部	小 川 和 雄 (ディモンズ)	佐 藤 日 出 夫 (世田谷区)	杉 崎 寿 三 男 (練馬区)
〃 6部	安久津 昭二 (中野区)	井 桁 四 郎 (エーデル)	藤 本 長 吉 (ジューゲル)
女子ジュニア	木 所 理 早 子 (若葉)	谷 由 美 子 (スポマン)	所 麻 衣 (若葉)
〃 少年	戸 田 美 祝 (チロル)		
〃 1部	小 島 瑞 会 (スポマン)	樋 口 紀 子 (港区)	西 川 文 子 (日本レーシング)
〃 2部	福 原 眞 澄 (世田谷区)	島 林 美 鈴 (ヌプリ)	谷 紀 子 (日立)
〃 3部	兔 澤 恵 子 (ヌプリ)	谷 百 合 子 (スポマン)	加 勢 陽 子 (大田区役所)
〃 4部	平 尾 信 子 (二十日石)	阿 部 昌 子 (世田谷区)	深 沢 睦 子 (トルベ)
〃 5部	井 桁 和 子 (エーデル)	上 山 千 恵 子 (ヴェスタ)	

## クロスカントリー競技

### クロカン4km 組別1位選手名

男子ジュニア	深 沢 正 (チロル)
〃 5部	鳥 海 幸 一 (チロル)
〃 6部	佐 々 木 栄 一 (シール)
女子 1部	木 村 優 美 (スポーツマン)
〃 3部	土 屋 博 子 (都 庁)
〃 4部	山 口 愛 子 (スポーツマン)
〃 5部	上 山 千 恵 子 (ヴェスタ)

### クロカン8km 組別1位選手名

男子 1部	笛 田 剛 (世田谷)
〃 2部	吉 岡 庸 雄 (JR大井)
〃 3部	荒 井 秀 樹 (江東区)
〃 4部	土 田 和 美 (都 庁)

### 女子リレー 3位迄

1位	江東区スキー連盟
2位	東京スポーツマンクラブ
3位	K S C



## 実技講習と 国際シンポジウム

(財)東京都スキー連盟主催により第3回目、菅平大松スキー場に於て平成5年2月23日～25日迄開催された。海外に出掛ける事なくスキー先進国のトップ指導者の講習を受け、親しく話を聴けると云う此の催しが非常に意義のある事であり、日本のスキー界にとっての指針に益するところが大きい。独自の主義主張に拘わる事なく広く知識を世界に求め、国内の事情と相待った視野から今後の日本のスキーを考えたらと思うからである。

### コーチ陣

実技指導で日本の技術は山本広富、大盛宏幸、上原由の各デモ。フランスはE.N.S.A国立スキー登山学校ピエールポット教授と、3名の講師。オーストリアはナショナルデモで、1991年サンアントンのインタースキーで、デモチームキャプテンを務めたゲオグル・ヘルリグレ国家検定スキー教師及び、指導陣。ポールレッスンは8年間フランスナショナルチームに在籍し、1989ワールドスキーチャンピオンで、1989日本プロツアー優勝、全日本技術選にも出場したフランス連盟派遣のマークガルシア講師と、我満嘉治デモの各氏が講師で4班に分かれ半日づつ指導を受けた。最終日には各講師が1名づつ入った小班に分れフォーメーションのコンテストを行い実技講習を終った。更に日本の特別講師S.A.Jデモ小林和人、里吉敏章、山本広富、各氏の他に伊東秀人、若月新一オーストリー国家検定スキー教師が、通訳として参加した。まさにスキー界



最高レベル講師による講習会であった。

### 実技講習

半日という短時間のため、講習内容は初心者の方の指導方法についての講習であった。

オーストリアについてはさすがバインシュピールの国、リズムカルな柔い下肢の動き日本スキー技術の源を感じさせるものであり、細分したバリエーションの展開、特にシュテムからと、プルークからパラレルへの段階を追った指導を受けた。上下動のリズムの強調が印象に残った。

フランスでは特に指導を受ける立場を主体に指導体系を組立てていると強調。初心者が初めて雪の上に入った時、取らざるを得ないヘッピー腰、必要以上に手を前に出したガニマタの不恰好な形の生徒の姿を生徒と一緒に作り、そこから指導が始まる。講習とは先生の勉強でなく生徒の立場が主体になるべきであるという考え方である。そして目的はいかにスキーを滑らせるかを教えると言う。フランスには基礎スキーと云う分野はなくシュテム・パラレルの次は、2方向即ち、自由に山林を滑りまくる技術と、競技技術に進むと云う事である。生徒との対話や生徒をいかに楽しませるかという事に配慮すべきと云う、自由を好み束縛を嫌う気質のフランス人生徒用というべきか、とかくバリエーションの推移のみで安易になり易い我々の指導との差を感じさせられた。短い日数の中での講習と云う日本の環境も考えなければならぬことを思いながら。

## 国際シンポジウム

23日 PM6:00 フランス ピエール・ボット教授の話に始まった。通訳は伊東秀人氏。

フランスには非常に広大なスキー場があり標高3000mぐらいからくだる超ロングコースが至る所にある。スキー場は空いているが、フランス人のスキーに対する関心が少くなりスキーヤー減少の傾向にあったが、アルペールビルオリンピック開催によりスキーへの関心が高まり、スキースポーツに興味を持つ人が増加したとの事。長野でのオリンピックで日本のスキー界に刺激を与え、より発展に効果の出る事を期待し、オリンピックに向けてよい仕事をして頂く様希望された。指導環境については年間5週以上の休暇を持ち自由を好むフランスには、技術選という様なものは無く競技スキーが主体である。長期休暇を利用してのスキーが可能である事等、日本のスキーヤーとは大分事情が異なる。指導に当っては生徒に自信を持たせる事から初め、生徒との関係を大切に理論を少なく、主に動きを指導し、スキーを楽しむ時間を作りながら、生徒のレベルに合った斜面で技術を指導し、あくまでも生徒の感覚に合わせて行く。日本のスキーヤーは回す事に主眼をおいている様だが、フランスのスキーはいかにスキーを滑らせるかに主眼をおいている。

オーストリアはゲオグル・ヘルリグレ教師。

通訳は若月新一氏。

オーストリア都会スキー指導員の活躍について。

地理的面からウィーンを中心に都会に於てスキーグループがあり、都会に在住して各自仕事で生計を保ち休日にスキーを指導する都会指導員が、日本同様活躍している。組織としてはスキー教師連盟、4つの州を中心とした組織、学校を通じた組織から成り、非常にしっかりした運営がなされている。指導員の数は日本の様に多くはない。トップシステムとして国家検定制度があり、トップスキーヤーの転向と地元スキーヤーが生活の目標として受検、更に外国からのスキー留学生とで100名を越す国家検定合格者が出ている。そしてその技術レベルは非常に高く資格があれば社会的に認知され、スキーで生活が支えられる環境がある。

現在スキー場環境、地域経済環境、スキー学校運営環境等種々考えなければならない時期にある。

(財)全日本スキー連盟日本インタースキー委員会  
委員長 福岡考純氏

各国のスキー教師の集りである、来る野沢インターシーに於て、都会のスキー指導員はどう考えるべきか、礼をつくし対話を持ち技術の背後にあるSPRITがある事を見なければならぬ。スポーツは人を結びつけるコミュニケーションを持てるものであり、思いやりで資質のある行動を取ってもらいたい、と今後の都会指導員のありかたについての倫理を説かれた。

2日夜は親睦パーティーや、抽選会で盛り上がった。閉会式にはフランスENSA、オーストリアブンデスハイムの講習終了証書が渡されて終わった。



# 走る快感。デモシーンに新しい風、アトミック ツインコック誕生。

スポーツあげたい、スポーツほしい。  
アトミックスポーツ

ディタナル+ツインコック構造による、超のつく操縦安定性。

品名 SUPER DEMO 品番 SRS 11D 輸入業者希望小売価格¥94,000 TWINCOCK

- 材質/芯材:木製(ディタナル) ラミネート:合成樹脂 滑走面:合成樹脂(ISOSPEEDトリプルシンタード)
- 構造/ツインコック●カラー/②ターコイズ ●サイズ/177cm、184cm、191cm、198cm、201cm ●オーストリア製

●表示価格は消費税抜きの価格です。消費税は別途申し受けます。●文中には、登録商標を記載していません。●②はアトミック社の登録商標です。●商品についてのお問い合わせは㈱アトミック消費者相談窓口までどうぞ。

〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL (078) 303-2233(専用)・(078) 303-3333(大代表) 〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL (03) 3624-1814(専用)・(03) 3624-2221(大代表)



**ATOMIC**  
FOR SPORT

株式会社 アシックス

# 平成5年度海外特別研修会報告

## 教育部副部長 杉崎寿三男

東京都スキー連盟海外特別研修会も本年度で4回目をむかえ、昨年に続いてフランス・シャモニースキー場で、3月26日より4月3日まで8日間の日程で行われました。今年も代表派遣選手は、東京都技術選手権での上位入賞者男子1名、女子1名と、都民大会男子成年2部スラローム優勝者の3名と、他に2名の都連関係者を加えて計6名が参加をして、所期の目的を達して参りました。

### — 研修目的 —

- ① スキー場の歴史を学び、諸施設及び運営方法を見学する。
- ② フランススキー技術の指導法・練習法等を学ぶ。
- ③ スキーが生活の中に於いて、スポーツとして、レジャーとしてどのように利用され、活用されているかを見学する。
- ④ ENSA（フランス国立登山スキー学校）を見学し、入校方法及びその諸施設を見学する。
- ⑤ 雄大な長距離ゲレンデを滑り、自己体力の確認と、トレーニング方法の研修をする。
- ⑥ スキーを通じて、両国の親善交流を深め、今後の活用に役立たせる。

等々のことを体験し、見聞を広めることに努めました。

### — 実施状況 —

シャモニーのスキー場は、ゲレンデを大きく5箇所のエリヤに分けてあり、4日間滑っても全てを踏破できず、遂に1か所を次回に回すことになりました。

又期間中の1日は、モンブラントンネルを抜けて、イタリヤのクールマイヨールスキー場に行き、世界各

国選手が出場しているテレマークスキースラローム大会を見学しました。又シャモニーから車で2時間以上もかけてラ・プランニューに行き、フランス全土の選手権、スラローム競技会の見学もしました。

今回の期間中は、天候に恵まれ、積雪・雪質のコンディションも上々で、大パノラマの針峰群に囲まれたスキー場の全てのすばらしさを、満喫したと言えたでしょう。

更には前述の2会場では、テレマークの妙技を、又アルペン王国が自慢としている選手層の厚いスラロームの熱戦を、目の前で観戦ができこれ又ラッキーでした。

ENSAについては、参加者の3人はすでに菅平スキー場で、STEP2に合格をしていて、機会があればいつでも入校できる資格を持っていると言うことで、ピエールポット教授を交じえてたいへん熱心な話し合いができて有効な施設見学となりました。

多数の都連の選手の中から選ばれた3名は、体力も有り、勤勉な意欲も旺盛で、今回の研修会を通じて得た体験は計りしれない大きな形となって、東京都スキー連盟の将来に役立つものと信じております。

### — おわりに —

旅行を企画した、クロサワトラベルの石井正一氏、又現地ではシャモニーに住居をかまえてスキー教師をされている横山日出現氏には通訳やら、全行程中のガイドを細やかにしていただきお世話様になりました。両氏にはこの場より厚く御礼を申し上げます。今後はこのような機会を重ねてゆく中で、東京都のスキーヤーとシャモニーの街が友情の和で更に深く結ばれて行くことを願っております。 — 終り —

展望クワッドリフトで高速・快適に車山山頂へ。  
360°のパノミックビューが壮観です。



Unforgettable Ski and Summer Resort Kurumayama Kogen

**Go For It! 車山高原**  車山高原 SKY PARK

'93 Green Season  
6.20 Event guide  
第14回 車山高原クロスカントリー大会  
8.07~29.  
ニュージーランドフェア'93  
8.28. 服部克久  
音楽畑コンサート  
前売券 3,000, 当日売 3,500  
詳しいお問い合わせは  
0266-68-2626 まで





## 海外研修記

### No. 5 日立本社 草野 薫

ヨーロッパ最高峰モンブランへの登山基地として、200年以上もの歴史を誇る町シャモニーは、アルピニストはもちろんのこと、多くのスキーヤーにとっても、あこがれの地として存在してきました。氷河に覆われたモンブランに連なる針峰群は、その荒々しさ、スケール、ともにとも日本では体験できない光景を眼前で展開しています。

谷あいにある人口約1万人足らずの町、シャモニーの中央に立ち周辺を見回してもスキー場らしきものは見当りません。この町をとりまく山の斜面にあるスキー場はいずれも森林限界を超える標高2000m以上に位置するため、そこに広がるゲレンデは日本のスキー場からは想像もつかない広大なエリアです。荒々しい岩肌と巨大なクレバスが圧倒的な迫力で迫ってきます。森林に囲まれた狭いコースに慣れた我々にとって戸惑うばかりの光景が広がり、全く違うスピード感覚を体験することができます。

今回の研修期間中は、全日程好天に恵まれ、その魅力を感じる存分楽しむことができました。シャモニーの名所として名高いエギュ・デュ・ミディ山頂からの十数キロに及ぶ氷河大滑降は、また違ったスキーの楽し

さを教えてくれます。普段、圧雪整備されたゲレンデに滑り慣れた自分にとって“オフピステ”という概念は全くありませんでした。しかし、自然のあるがままの姿の中で滑るスキーは、我々にスキーというスポーツの原点を示してくれました。モンブランのイタリア側に位置するクールマイヨールはどちらかと言えば日本のスキー場に似て、人工雪によるしっかりと整備されたピステを持つスキー場です。ここ数年来の世界的規模の温暖化傾向は、ヨーロッパのスキー場にも深刻な雪不足をもたらしていますが、高い標高と気温や湿度からコンピュータのきめ細かな制御で随時雪を降らせるシステムを備えるクールマイヨールは、今後のスキー場の条件を満たしていると言えます。

ヨーロッパにおけるスキーというスポーツは、日本とは比べものにならないほど、メジャーな存在であると思います。それは、山岳部における交通手段のひとつとして発達した歴史からも分かるように、より生活に密着した存在であるからだと思います。今回の研修ではシャモニースキー学校、ENSA等を見学する機会に恵まれ、職業としてのスキーヤーの姿をまの当たりにすることができました。多くのスキー人口を底辺に持つゆえに確立されているとはいえ、プロとしての自覚のもと、生徒の安全とスキーの楽しさを十分に教

## 大自然の交響曲

シンフォニー

(リゾートライフを彩る宿泊・スポーツ・アメニティ施設)  
 ■妙高パインバレープリンスホテル本館(138室)・新館(87室) ■レストラン&ショップ棟 ■リゾートロッジ(5棟・41室) ■ゴルフコース(27ホール) ■チニスコート(19面) ■インドアゾーン(スイミングプール、チニスコート(2面)、アスレチックジム) ■インドア馬場 ■18ホールバターゴルフ ■つり堀 ■サイクリングロード ■ゴルフ練習場 ■スキー場 ■セミナーハウス

**妙高パインバレー**  
 妙高パインバレープリンスホテル  
 〒949-22 新潟県中頸城郡妙高村桶海1090  
 TEL.(0255)82-4111  
 東京案内所 TEL.(03)3434-8565 大阪案内所 TEL.(06)949-4300

えてくれる姿勢は、技術一辺倒の日本とは違った歴史の深さを感じます。その上、アルペンスキーに限らず、クロスカンントリー・モノスキー・スノーボード等多様な種目及び指導体制は間口の広さを感じるとともに、冬という厳しい自然環境を耐えることから逆に楽しんでしまう発想の豊かさを強く感じることができました。

競技スキーという性格上、速さばかり気を取られがちな自分にとってスキーというスポーツのまた違う楽しみ方を教えられ、大変貴重な体験を得られたとともに、他の多くの日本のスキーヤーにも、是非、体験してみてほしいと思います。また、このような機会を与えていただいた関係各方面の方々にこの紙面をお借りし、感謝を申し上げます。



## シャモニー研修記

No.450 シュアスキークラブ

藤田浩子

1993年3月26日、私達は期待を胸にシャモニーへ向けて成田空港を出発した。

ヨーロッパ最高峰であるモンブランの麓にこの街は広がっていた。私達が滞在している間は見事に快晴、毎日モンブランを望むことができた。

日本との時差およそ8時間。若干残る時差ボケも、モンブランを目の前にした私達にとって、何の問題もなかった。シャモニーの街からモンブランを望み、大きく深呼吸をする。ようやくシャモニーに来たことが夢ではないことを実感する。

私達が約15時間かけてここまで来たのは、もちろん観光・・・それもある。が、第1の目的は「スキー」である。一同、スキー場へ・・・。

私達はシャモニーで、1人の日本人に出会う。彼の名前は横山日出現(よこやまひでみ)さん。フランス国家検定スキー教師の資格を持ち、シャモニースキー学校で講師をしている。ここに来てもう20年以上になるという。本来なら国家検定の資格を持っていても外国人はフランスではスキー教師として働けないのだが、シャモニーを訪れる多くの日本人の為、彼は特別な存在である。彼の生き方も魅力的である。

日本でいうスキー場とは、きれいに整備されていてリフトが何本かあって、音楽がかかっている・・・とい

った光景を思い浮かべる。かもて私がカナダへ行った時、はるかに日本よりはコースの長さはあったが、それ以上は日本人の感覚を覆されることはなかった。しかし、この地シャモニーへ来て、幾つかのカルチャーショックの中の1つであるオフピステの醍醐味を体験することができた。富士山よりも高い所までロープウェイで登り、山頂から約200mは全員腰にロープを巻きつけて、右手にスキーを持ち、左手で手すり用のロープを伝ってゆっくり下りていく。いつになく一同顔が真剣である。あまりの寒さにスキーを持っていた右手が冷たくなって痛いほどであった。

命綱とも言えるロープを解きスキーをつける。皆の顔にも笑顔が戻る。オフピステはここからなんとまる1日続く。目の前にはまるで写真のような景色が延々と続いていた。すぐそばにあるオフピステに蟻のようなものが・・・人間である。全く距離感がない。こんな体験も初めてである。私達は一般のコースではなく少し険しいところへ連れていかれた。一面見渡しても私達だけである。まるで写真の世界に放り込まれた気分である。すぐ横は氷河。氷河はここへ来る人の心を奪ってしまう素晴らしいものであった。また不幸なことに心ばかりでなく命まで奪われた人は数しれないという。美しい氷河も一転して恐ろしいものになってしまう。感動の中にもどこかせつなさを胸に私達は氷河とオフピステを後にした。

シャモニーでの生活は本当に楽しく、息をつく暇がないという感じであった。様々なアクティビティは好奇心の塊りである私にとってとても刺激的な毎日であった。この体験を胸にこれからも一指導者として日本のスキー界に少しでも貢献できたらと思う。

最後に、紙面をお借りして、東京都スキー連盟の先生方、こんなに素晴らしい体験をさせて頂きまして、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。





## S.A.T 研修会 U.S.A

総務部理事 大沢 秀一

朝食をとるためホテルのレストランに降りメニューから、一番安いセットをたのんだ。しばらくすると大きなカップにコーヒーがあふれ、皿には玉子が5個は入っているであろうスクランブル・エッグが。その上にケチャップがかかり、大きなベーコン4枚、サラダとポテトが山程乗ってわきにトースト3枚がついていた。一体誰が食べるの？。

この感覚で全ての事をやってしまう国である。

アメリカンスキーは危険な所程行きたがる、スキー技術、スタイルはかまわない。広いゲレンデに標高差のある長いコースを、破けたジーパンにヨレヨレTシャツで大声を出しながら滑る。転ぶ。なんでもありの楽しみ放題、でも怪我とエア外は自分持ちの有料代金。

ここに我がS.A.Tの研修会が登場。もちろん一応の事はやっても、ここはアメリカ。小さくまとまって登り降り、ブルークボーゲンやシュテムターンなどを、新雪やコブ斜面を得意とする人にはさせられません。ヘブンリーバレーの頂上3,000mからネバダ側の砂漠へ、カリフォルニア側の湖へ、一気！です。

地元のスキー学校も歓迎して、S.A.Tの各班ごとにコースガイドをしてくれたまでは良かったが、講師交流となると日本ではパトロールに大目玉の50度は楽に越えている急斜面へ…………。

それでもここもゲレンデ、コースです。隣で雪崩が落ちようが人が転んで滑落してようが、Have a nice day!! でした。

スキー技術はお国も違えば違います。帰りの飛行機では心地良い疲れと、自由の国の自由なスキー、そして、その自由な内にも必要なスキー技術。などと考えながら本当の意味での研修会であった気がして帰りました。

登録番号No.242

## ベストをつくして

ドウ・マイ・ベストスキークラブ 恩田 秀雄

私共のクラブは昭和44年に東京スキークラブ様のご推薦をいただき、現在の名称に変更の上健全なクラブの運営に努めて参りました。当クラブを構成する会員

## 加藤二郎さんの思い出

総務専門委員 渡辺 宏

成田の出発ロビーでパツパツ指導員会の阿部幹事長と顔を合せた。期せずして口から出たのは「誰かひとりたりないな」。という言葉であった。



'93年度の都連海外研修はアメリカで、レイクタホを見下すヘブンリーバレーが主会場である。

例年なら必ずあの小肥りな体と特徴のある大きな二重の目、絶えずくわえたタバコから紫煙をなびかせ、「ヨーッ」と、現われる加藤二郎都連副会長の姿は今はない。二郎さん（あえて二郎さんと書かしていた）は、都連の総務部長や現職の副会長の要職にあって、大変功績あったことは今更書くまでもあるまい。

スキー関係のあるパーティで初めて握手をした時、力強くぶ厚い手のひらの感触は今でも忘れられない。これが二郎さんとの最初の出会いであった。

その後指導員会の広報や、総務専門委員としていろいろお手伝いするうちに、春夏秋冬スキーシーズンに関係なく、一年中遊んでくれる楽しい友達になってしまった。本来のスキーではカナダやヨーロッパ、準指検定会場などで一緒に滑ったが、特にバルデーゼルのコブのバーンを軽がると降りる姿には、目を見張ったものであった。

紙面に限りがあるので、最後に二郎さんがよくいていた「良い仲間と一緒に楽しくやろう」。この言葉を忘れずに、今後も私達の組織の為に微力を尽す覚悟である。存在感のある人を亡して本当に残念。心より御冥福を御祈り致します。

合掌。



は職種も様々で、仲々全員揃っての行事は難かしく、その為に月1回の行事を企画して会員同志がまんべんなく会える様にしております。スキー技術の向上はもとより、和を尊び、又様々なスポーツにチャレンジしております。

今後も「安全で楽しいスキー」の精神を貫き、会員の2世も交え、いつ迄も素晴らしいクラブが存続する様に運営して参ります。

## 生涯スキーを目指して

田無スキー連盟会長 及 川 年 夫

昭和44年の都連加盟から23年が経ちました。当初準指1名の幼稚園クラブも御陰様で資格者も8名に増えバス1台40名のスキー教室が出来るようになりました。この間に日本白陵スキー同人とは加盟当初から有難い友好クラブとして、毎シーズンの待ち兼ねた初滑りを11月の立山や、志賀での共同行事も懐しいものです。田無には技術・理論ともに擢り出た先輩が居なかったので、白陵会長の中村邦光先生には大変教えて頂きました。元(全)技術員のテクニクに加えて物理を教える大学教授ですから、理論派も実力派も大いに納得です。当連盟の活動は個人の実力向上と、各職域仲間うちのレクスキー及び市民スキー教室の主催という3面を、各人が調整し楽しんでいます。20年来の記録を見直すと毎年11月から5月迄の7回の教室と6～8月のサマースキーと盛り沢山でしたが、年々交通事情の悪化と宿泊予約も窮屈となり近年は一般市民募集の教室は正月教室のみに縮小で残念です。代って量より質を目指す教室の特徴は参加全員者が初めての人から上級者迄出発前に板と靴のチューンナップを無料で受けられる事です。スキー初体験の小中学生には完璧チューン済で且つビベリング研究された板を貸してやるので滑走中に転ぶ例は稀です。更に靴は各人の足裏型を採り特製したインソールを挿入してある為エッジ感覚が抜群で当然上達スピードも3倍モードです。宿でも一室を工具作業台完備のチューン専用としてあるので昼間の不具合は夜の間に解消し翌日はそれこそシーハイル。チューンに興味ある方情報交換しましょう。当方に有益情報多数在ります。御待ちしております。

## 編 集 後 記

ちょっと。そんなに簡単に読んですてないでヨ。たかが16ページのSATだよりだけど、これだけ作るの大変な作業なんだから。

最初は、何もなくても、こんなもの出来上がると思っていたら「あなたって言う人は何を考えているの!」って、おこられて「編集委員長って編集経験者がやるんじゃないですかあ〜」と云ったら、「おだまりなさい

## 楽しいスキー

スノーベッカーズスキークラブ会長 山 田 勝 彦

私共のスキークラブは、スキーを通じて、健康作りと親睦を図り「初心者からベテランまで、スバラシイ雪山の大自然の中での安全で楽しいスキー」を目標としています。

初心者には何処のスキー場でも楽しめるスキーの技術指導、パッチテストや雪の上での運動会(スキー板を脱いで、雪の中を這いずりながらの宝探し等)、最近では、スキー登山(昨シーズンには久しぶりに、ヘリコプターを空に眺めながらの菅平根子岳のアップダウンツアー)や、散歩スキーツアー等の行事を若い幹事が計画し行っております。又その他アフタースキーも楽しんでおります。

尚、ベテランにはプライズテストへ、準指から指導員検定へとチャレンジできるシステムにもしてあります。現在は登録会員40名程ですが、特に地域性はなく、スキー教室では幼稚園児からシルバーエイジまで、年齢層の幅広いのが特徴です。

当クラブの創立については、私が昭和29年より所属しておりました昭和4年創立の横浜のスキークラブベルクカメラートにて活動、横浜市民スキー教室に指導のお手伝い等致しておりました。そこで東京の同好者が多くなり、雪に「ストックとおしりで穴をあけて滑る」意味で名称を付け、分離独立しクラブを結成、ジーゲルグループの御推薦により、昭和44年9月都連に加盟し、24年目を迎えることになりました。

「楽しいスキー」を旗頭にしていますが、競技スキーも練習してみたいと言う会員の希望もあり、これからは競技面もチョット充実してはと考えております。

!!」(共立風)

無い頭を人に知られない様にガンバッタこの半年。事、ここに至ったら、やるしかない。ストックをエンピツに持ち換えて、やっとできたこのSATだより。

委員のみなさん、御苦勞様でした。

読者の皆さん、簡単にすてないで。

SAT 編集委員会委員長 大沢秀一

委員 久保田友江、総務部専門委員渡辺宏・本間毅一